



梅雨の晴れ間のコンサート



四つの男声合唱団による
梅雨の晴れ間のコンサート

2002年6月23日(日)

午後2時開演

名古屋市芸術創造センター

ごあいさつ

皆様、本日は四つの男声合唱団＜関・昂・瀬戸・グランフォニック＞主催の“梅雨の晴れ間のコンサート”にお出かけ頂き誠にありがとうございます。

私達はこの演奏会の為に各団の練習に加えて、4月より毎月1回合同演奏曲＜月光とピエロ＞も練習をしてまいりました。この合同練習には約100名が集まり熱心に真剣に取り組みました。わがことながらその風景は感動的なものでした。一家言もち、プライドも高い男声合唱団が集まり共同主催して演奏会を催すことは難しいこととされています。しかし私達はお互いに力を合わせてきわめてスムースにこの演奏会を催すことができ大変幸せに思っています。

これも平素、各団員を蔭から支えて応援して頂いた御家族（奥様、子供さん、お孫さん）や関係者の皆様のご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。

本日はこの感謝の気持ちをいっぱい込めて精一杯の演奏をしたいと思います。各団がそれぞれの持ち味を生かして歌い、続いて合同演奏による男声合唱組曲＜月光とピエロ＞を約100名で歌います。年齢（戦争体験者から働き盛りのナイスガイまで）、職業、合唱歴もさまざまな男達が、その人生経験（人格）を下絵にして、声（心）を合わせて歌う五つのステージは、いずれも男声合唱独特の“力強く、豊かな、男のロマンチズムにあふれた”響きとハーモニーを皆様にお届けするものと信じます。

存分に味わって頂き“梅雨の晴れ間の”このひと時をごゆっくりくつろいで頂ければ大変うれしく思います。

私達はこれからも力を合わせて次ぎの目標を目指して努力していきたいと思います。今後とも一層の御支援をお願い申し上げます。 本日は本当にありがとうございます。

平成14年6月23日

実行委員長 浅井勢士



プログラム

1. 関男声合唱団

『外国唱歌の12か月』より 青島広志編曲

かすみか雲か	勝 承夫作詞	ドイツ民謡
故郷の廃家	犬童球溪作詞	ヘイス作曲
琵琶湖周航の歌	小口太郎作詩	吉田ちあき作曲
	伝イギリス民謡	
ステンカ・ラージン	与田準一訳詞	ロシア民謡

指 挥：近藤紀公 ピアノ：渡辺陽子

2. 男声合唱団「昴」

『アカペラ男声合唱の魅力をもとめて』

わが歌	三浦和夫訳詞	L. SPOHR作曲
見上げてごらん夜の星を	永 六輔作詩	いずみ たく作曲
	編曲者不詳	
さらば青春	小椋 佳作詩・作曲	福永陽一郎編曲
夕やけこやけ	中村雨紅作詩	草川 信作曲
	福永陽一郎編曲	
かきつばた	北原白秋作詩	多田武彦作曲
ふるさと	室生犀星作詩	磯部 岷作曲

指 挥：山田正明

3.瀬戸男声合唱団

『心にしみる日本のうた』 神谷伸行編曲

見上げてごらん夜の星を	永 六輔作詩	いずみ たく作曲
少年時代	井上陽水作詩	井上陽水・平井夏美作
熱き心に	阿久 悠作詩	大瀧詠一作曲
秋 桜	さだまさし作詩・作曲	
昴	谷村 新司作詩・作曲	

指 挥：神谷伸行 ピアノ：吉田雅博

INTERMISSION

4. グランフォニック

『花鳥風月』～独白：春の詩華集～

花：独之花	「野ばら」	Goethe作詞
日之花	「花」	Welner & Schubert作曲
鳥：独之鳥	「小鳥たちは皆ここに」	武島羽衣作詞
日之鳥	「かなりや」	滝廉太郎作曲
風：独之風	「五月のそよ風」	ドイツ民謡
日之風	「緑のそよ風」	西条八十作詞
月：独之月	「砂のこびと（眠りの精）」	成田為三作曲
日之月	「おぼろ月夜」	Anton von Kleisheim作詞
		Joseph Kreipl作曲
		清水かつら作詞
		草川 信作曲
		作詞者不詳
		Johannes Brahms作曲
		高野辰之作詞
		岡野貞一作曲
花／風…編曲：なりた まさと		指揮：成田 正人
鳥／月…編曲・指揮：向川原 慎一		
ピアノ：早瀬 洋子	口上：永井 一美	

5. 合同演奏

男声合唱組曲 『月光とピエロ』

堀口大学作詩

清水 修作曲

- 1) 月夜
- 2) 秋のピエロ
- 3) ピエロ
- 4) ピエロの嘆き
- 5) 月光とピエロとピエレットの唐草模様

指 挥：山田正明

関男声合唱団

1954年成人学校の音楽サークルが閉講となり、混声合唱団として存続しようと「関合唱団」の名称で発足した。団員の入退団は激しく、特に女性の固定化が難しいので、遂に1961年「関コラリアーズ」の名称で男声合唱団としてスタートした。知名度を上げるために市内の各地で歌ったり、歌唱指導、慰問演奏などを行った。1962年に第1回のリサイタルを開催し、以後8回まで続き安定したかに思えたが、また沈滞化し始めた。1981年関市で初めての「第九交響曲」の演奏が行われ、合唱団が全面的に協力した。打上げの席上で男声合唱団結成を呼びかけ賛同者が多く、「関男声合唱団」として再スタートした。活動としては関市文化祭、中濃合唱祭、県合唱祭等に参加しつつ、自分達のリサイタルも5回行った。この間には「第九」「森の歌」の参加や、女声合唱団とのジョイント、各イベントの賛助出演などに出演した。特に1996年は上海への演奏旅行、岐阜メルサホールでの演奏会、高鷲村からの招待演奏会および文化祭・合唱祭等に出演と超多忙であった。この反動か、退団もあったが新たに入団を呼びかけ、合唱団としての最低の人数だけは確保できた。現在団員の平均年齢も60歳台となり、団員の数も少なく合唱としては冬の時代であるが、発足50年弱、男声合唱40余年の伝統を守るべく、団結と情熱を持って本日の演奏会に取り組んで行きたい。

『外国唱歌の12ヶ月より』

明治時代に導入された外国曲から12ヶ月分の曲でワンステージになるように編曲された、同声合唱組曲の中から、4、5、6、9月のうた4曲を演奏します。

“男声”といえば“ア・カペラ”と相場が決まっているようですが、本日は小アンサンブルの男声とピアノとの協奏曲風の巧みなアレンジにより、おなじみの唱歌がひと味違った味わいで、気軽にお楽しみいただけだと思います。

1. 「かすみか雲か」ドイツ民謡 明治16年

この曲が「キラキラ星」の一変種と考えられて、ピアノパートはモーツアルト風に書かれています。なお、ラスト近くのカデンツァは「さくらさくら」をモチーフにした当団のオリジナルです。

2. 「故郷の廃家」ヘイス作曲 明治40年

作曲者はアメリカ人ですが、スコットランドの影響を受けた旋律と考えられ、ピアノパートはアイリッシュハープ風に編曲されています。

3. 「琵琶湖周航の歌」伝イギリス民謡 大正7年頃

旧制三高のポート部の寮歌とされ、作詞者は判明したものの作曲者は不明のままでした。最近になって大正4年に吉田ちあきという人が、イギリス民謡の旋律をもとに作曲したものと一応の決着を見ました。

4. 「ステンカ・ラージン」ロシア民謡 昭和10年頃

17世紀のコサックの首領で、皇帝に対して反乱を起こし処刑された実在の英雄ステンカ・ラージン。

彼がペルシャに攻め入った時に貴族の娘を捕らえ船中にはべらせていたのを、部下達がそのおごりを追及したため娘をボルガ川に投げ入れた、という伝説を歌ったもので、代表的なロシア民謡のひとつです。

近藤 紀公（こんどう のりきみ）指揮者

1963年 金沢大学法文学部英米文学科卒業。2年間「金沢大学歌う会」合唱指導者。

1971年 男声合唱団「関コラリアーズ」指揮者。同年全日本合唱コンクール岐阜県大会1位。

1978年 「関高校コーラス部」指導者。全日本合唱コンクール岐阜県大会金賞3回（中部大会出場）

1992年～「関男声合唱団」指揮者 中濃合唱連盟理事長。前岐阜県合唱連盟副理事長

渡辺 陽子（わたなべ ようこ）ピアニスト

名古屋音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専修卒業。同大学定期演奏会に出演。

ソロ活動のほか、ピアノデュオを結成してリサイタル等を行う。

声楽・合唱のピアニストとしても各種演奏会に出演。渡辺美恵、百瀬雅恵、伊藤寿美子、三浦洋一の各氏に師事。



男声合唱団「昂」

“合唱の原点はアカペラ”を旗印に名古屋及び周辺の仲間が集まり、平成11年1月設立し、山田正明氏の指揮・指導で、アカペラ男声合唱曲を中心に基礎を大切にした練習を続け4年目を迎えました。

この演奏会は私達にとって初舞台となります。日ごろの成果を精一杯演奏します。どうぞごゆっくりお聞き頂き楽しんで頂ければ幸せでございます。

私達はこれからも、いたずらに大曲・難曲を求めず、親しみ易い日本や世界のアカペラ男声合唱曲を、正確に豊かに歌い、その醍醐味を楽しむ会を目指していきます。“安易な楽しみ”に流れず基礎（发声・声作り）を重視した日頃の練習を積み重ねて、より多くの仲間と共に「昂」のハーモニーを作り上げて行きたいと願っています。

貴方のご参加を歓迎します。

『アカペラ男声合唱の魅力をもとめて』

男声合唱の魅力は、その密集和音から醸し出される“重厚なハーモニー”にあります。特にアカペラ男声合唱においてその魅力が強く感じられます。第2ステージはその魅力をもとめて、皆様にもおなじみの曲や、オリジナル男声合唱曲を選び構成しました。

<わが歌>

原題はドイツ語でDas Lied(歌)。

いざわが歌、翔けり行け 天つみ空、鳥のごと
喜びに燃ゆる胸 喜びに燃ゆる胸

男声合唱の経験者なら一度は歌ったことのある曲。

<見上げてごらん夜の星を>

<さらば青春>

<夕やけこやけ>

<かきつばた>

北原白秋が故郷を偲んで作詩した「柳河風俗詩」に多田武彦が作曲した同名の男声合唱組曲の第3曲。

柳河の古き流れの川辺に咲く「かきつばた」は、昼は良家の娘さんが、その美しさを愛でてくれる手に香るが、夜になれば遊郭から流れてくる三味線の音の陰で涙して泣き明かす遊女のように花も萎んでしまう。

<ふるさと>

「ふるさと」は室生犀星の詩集「抒情小曲集」の中に収められており、彼の詩中最も愛唱された詩編

の一つ。年少時代の作者が、都会に零落放浪していた頃の作。

ふるさとは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしや
うらぶれて異土の乞食（かたい）となるとても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのこころもて
遠きみやこにかへらばや

山田 正明（指揮者）

1954年 名古屋大学経済学部卒業。在学中名古屋大学男声合唱団指揮者をつとめる。

1952～1967年 東海メールクワイア団員。在団中後半は副指揮者をつとめる。

1957～1962年 日本ガイシ混声合唱団指揮者。在任中産業人合唱コンテスト全国大会に中部代表として3年連続出場。

1991～1998年 メンネルコーラ東海団員・副指揮者。

1998～2001年 クール・ジョワイエ団員。

現在、恵那女声コーラスおよび男声合唱団「昂」の指揮者をつとめている。

瀬戸男声合唱団

平成6年（1994年）1月に瀬戸市の一角で産声を上げました。以来、指揮者の神谷先生を中心として練習を重ねて来ました。毎週水曜日の午後7時頃から瀬戸市下陣屋町の専用スタジオでやっています。

団のモットーは「歌っていて気持ちがよい」「聞いていて気持ちがよい」歌を歌うことです。気安さの中にも緊張感のある練習により、一層密度の高いメンタルハーモニーを作り出し、私たちのメッセージを伝えたいと努力しています。

今までに歌って来た歌は、清水脩、多田武彦両氏を中心とした邦人作品や日本民謡等、アフロアメリカスピリチュアルズ、宗教曲、その他の外国曲及び指揮者の編曲による日本のポピュラーソング等です。これからも偏ることなく、いろいろな分野の曲を歌っていきたいと思っています。

団創立の時から愛知県合唱連盟主催による合唱祭や、瀬戸市文化会館主催の文化の祭典、瀬戸合唱フェスティバル等に毎年参加、その外にも老人ホームの慰問、他の合唱団との交流会等を随時行ってきました。又、団内の有志による原山メールアンサンブルは、1996年から愛知県ヴォーカルアンサンブルコンテストに略毎年参加して金賞か銀賞を受賞しています。1997年、1999年、2001年に瀬戸市のエンゼルホールに於いて、演奏会を催しました。来年は団創立10年を迎えることになり、名古屋市内で第4回演奏会を開催しようと目下練習に励んでいます。

『心にしみる日本のうた』

平成9年7月、第1回演奏会のアンコール曲として、指揮者、神谷伸行の編曲による「琵琶湖周航の歌」を歌いました。この曲は歌う側の私達の感性にとてもマッチしていて(年齢の所為があるかも?)歌いやすく、素直に感情を表出することができましたので、聴衆の方々からも大変な好評を得ることができました。

これで味をしめた訳でもありませんけれど、その後の第2回、第3回の演奏会で「心にしみる日本の歌」と題して、一つのステージを構成するようになりました。編曲は勿論全曲神谷指揮者で、男声合唱にふさわしく、ほのかなペースと内に秘めた情熱を感じさせるような曲で構成され、ピアノ伴奏を伴いメドレーで次々と歌います。今までに歌った曲は「北帰行」「坊がつる讃歌」「夜明けの歌」「海・その愛」「遠くへ行きたい」「サライ」「見上げてごらん夜の星を」「旅人よ」「風」「熱き心に」「いい日旅たち」「昂」です。

今回はこの中から「遠くへ行きたい」「熱き心に」「昂」の3曲と、新曲で「少年時代」と「秋桜」の2曲、合計5曲を歌います。御来場の皆様と男のロマンと情熱を共感できれば最高の幸せ！！あります。

神谷 伸行（指揮・指導・編曲）

名古屋市出身。同志社大学文学部英文学科卒業。在学中はグリークラブにおいて指揮者として活躍、第12回関西六大学合唱演奏会で「R. シュトラウス歌曲集（福永陽一郎編）」を指揮、小松一彦氏より好評を得る。指揮法および編曲法を故福永陽一郎氏に師事した。卒業後声楽を平野忠彦氏に師事。大学男声合唱団の指揮を経て現在に至る。瀬戸男声合唱団では創立以来指導にあたっている。旭混声合唱団指揮者。

吉田 雅博（ピアノ伴奏）

12歳より西六郷少年少女合唱団ピアニストとして活動を始め、NHK-TV・ラジオ等に出演した。東京コンセルヴァトワールSOHOBⅠディプロマ卒業。岩本みどり、塙本雄二、ロナルド・カヴァリエ、パウル・パドゥラ＝スコダの各氏に師事。国内著名なオーケストラや国内外のアーティストとの協演も数多い。現在、大垣女子短期大学非常勤講師、名古屋芸術大学実技補助員として勤務。岐阜混声合唱団指揮者。



グラソニック

1994年5月、東海地区在住の東西4大学（早稲田、慶應、同志社、関西学院）のグリークラブOBが中心となって「東西4大学OB合唱団東海」を結成。1996年10月には三重県津市にて始めての演奏会を開催。その後、1998年1月に第1回定期演奏会、1999年4月に第2回定期演奏会を開催して、2000年10月には名称を「グラソニック」と改称し第3回定期演奏会、そして本年（2002年）3月に第4回定期演奏会を開催し本日の演奏会に臨んでおります。

現在『コンサートは、男声合唱のより高度な水準を目指しながら、団員の自己満足ではなく、来場していただいた皆さんから聴きに来て良かったと言っていただけるよう努力する』、『団の特色として、「ドイツもの」（原語）をキチンと歌える合唱団を目指す』、『男声合唱のパートナーを創作や編曲を含めて開拓して行く』という団の基本コンセプトのもとで活動を続けております。

今後は、来年（2003年）10月に一つの区切りとなる第5回定期演奏会を予定しておりますので、その時は是非ともご来場賜りますようお願い申し上げます。

花鳥風月 独日：春の詞華集

ドイツとっぽん

明治時代に外国からもたらされた様々な文物は、130余年の時を経て、あたかも我が国固有のものであるかのように人々に受け入れられ、定着しました。

このころ、音楽の分野ではドイツの歌が沢山もたらされました。民謡あり、芸術歌曲ありと様々でしたが、これらの歌は主に学校教育を通して我が国にしっかりと根を下ろし、長い年月の間に元々はドイツの歌だったことが忘れられ、まるで日本の歌であるかのように親しまれ歌い継がれてきました。

一方、日本人の中でも西洋の音楽を学んでこれまでの伝統音楽とは違った音楽を作り、ヨーロッパの文芸に倣った詩歌を創るようになりました。こうして今日に至るまで、学校唱歌、童謡、芸術的な歌曲と沢山の歌が創られ、時の審判を経て今に歌われるようになったのです。

こんな由来をもつ歌の中から、今宵は、花、鳥、風、月にちなんだものを歌います。曲によってはそのものズバリでないものもありますが、そこは当たらずといえどもということで、唱歌、民謡、芸術歌曲、学生歌と様々な素材から成る独日春の詞華集を編んでみました。

向川原慎一

早稲田大学第一政治経済学部卒業。グリークラブではパートリーダーと学生指揮者を務め、その後も女声・混声・男声それぞれの分野で指揮や演奏に多くの経験を重ねながら、楽器メーカーの音楽教室関係の仕

事を通じて和声法や音楽理論などを学び音楽への造詣を深める。

現在は会社経営の傍らグラソニックをはじめとして女声コーラスやゴスペル講座の指導、および作編曲などの音楽活動を続けている。小林研一郎氏に師事。

成田 正人（なりた まさと）

慶應義塾大学在学中より合唱指揮の傍ら作曲・編曲や詩作を手掛け、数年前から「生きるということ」をテーマにした“音楽物語”形式の作品をシリーズで発表し始める。代表作に『子犬のチロの物語』、愛の三部作『パパの子守歌』『絵描きと少年』『不破白人の恋』、とこなめ音楽祭委嘱オペレッタ『ブチ・ハラハの謎』、盲導犬チャリティー委嘱オペレッタ『ハーネスで握手!』等。他に編曲もの多数。

指揮法を伊藤栄一氏に師事。現在、男声・女声・混声各合唱団の指揮・指導に当っている。

早瀬 洋子

愛知教育大学音楽科卒業、同大学院修了。在学中より伴奏者として活動を始め、以来、名古屋二期会を手始めに、名古屋オペラ協会、三重県オペラ協会、名古屋市文化振興事業団、愛知県文化振興事業団、岐阜県産業文化振興事業団、長久手オペラレクチャーコンサート、などの公演に多数携わる。2002年3月の定期よりグラソニックの伴奏者。

現在、愛知教育大学非常勤講師。名古屋芸術大学実技助手。

合同演奏曲『月光とピエロ』について

合同演奏のステージ「月光とピエロ」は、もはや男声合唱の古典ともいべき曲で、男声合唱をやっている人は誰でも一度は歌ったことがある名曲である。

清水脩の初期の傑作であり、それが発表された当初より現在に至る間、男声合唱組曲として常に変わらぬ高い人気を保持している。なお、この曲の決定的な成功によって、日本独特の「合唱組曲」という形式が確立されたという。

堀口大学が、外交官だった父と共に送った10年の海外生活の中で生まれた詩79編をまとめたものが詩集「月光とピエロ」(1919年刊)である。その中から「秋のピエロ」が昭和23年、第3回全日本合唱コンクールの課題曲として作曲され、以後清水脩の指揮していた東京男声合唱団のために、他の4曲を加えて組曲とし、翌年この合唱団により作曲者自身の指揮で初演された。

書名となった「月光とピエロ」は、月光のもとに独り踊る道化師という意味であり、真白く白粉を塗り、白衣を着て人を笑わせる、気楽そうにおどけているこの道化師も、ほんとうは寂しい人間であり、月夜の下で涙を流している様を歌い上げている。

月光とピエロ

1. 月夜

月の光の照る辻に
ピエロはさびしく立ちにけ
り。
ピエロの姿白ければ
月の光に濡れにけり。
あたりしみじみ見まはせど
コロンビイヌの影もなし。
あまりに事のかなしさに
ピエロは涙ながしけり。

2. 秋のピエロ

泣笑ひしてわがピエロ
秋じゃ！ 秋じゃ！
と歌ふなり。
Oの形の口をして
秋じゃ！ 秋じゃ！
と歌ふなり。
月のやうなる白粉の
顔が涙を流すなり。
見すぎ世すぎの是非もなく
おどけたれどもわがピエロ
秋はしみじみ身に染みて
真実なみだを流すなり。

3. ピエロ

ピエロの白さ！
身のつらさ！
ピエロの顔は
真白け！
白くあかるく
見ゆれども
ピエロの顔は
さびしかり！
白くあかるく
見ゆれども
月の光は
さびしかり！

4. ピエロの嘆き

かなしからずや身はピエロ
月の寡の父無児！
月はみ空に身はここに、
見すぎ世すぎの泣き笑ひ！

5. 月光とピエロと

ピエレットの唐草模様
月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット
踊りけり、
ピエロ、ピエレット。
月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット
歌ひけり、
ピエロ、ピエレット。
踊りけり、
ピエロ、ピエレット
歌ひけり！
ピエロ、ピエレット。
踊りけり、
歌ひけり！
ピエロ、ピエレット
ピエロ、ピエレット。
月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット。
ピエロ、ピエレット。
月の光に照らされて。



出演者

関男声合唱団

T 1

斎藤 方成 三浦 登 高垣 国平

T 2

河合 紀久 今尾 育男 佐藤 恵一

B 1

中村 慶男 中島 弘義

B 2

三浦 浩明 三浦 映二 伊藤 忠
青木 徳雄

瀬戸男声合唱団

T 1

井上 節夫	大池 廣	柄沢 克彦
田坂 雄一	福本 忠弘	

T 2

今津 英雄	今村 照彦	藤沢 尊之
降幡 弘人	萩野 忠義	

B 1

加藤 一人	江崎 哲司	佐々木章三
堀 汎		

B 2

伊藤健太郎	喜久山雅司	富田 義民
宮崎 嘉夫		

グランフォニック

男声合唱団「昂」

T 1

足立 幸雄 大池 廣	神田 一利
芝 昌義 不破 俊次	与田 準一
横井 保夫	

T 2

浅井 勢士 岩見 雅夫	近藤 節夫
酒井 哲夫 鈴木 啓之	松尾 純一

B 1

伊藤 弘一 大原 功	片山 正之
菅井 昭三 戸田 省二	野崎 民夫
藤野 優男 横井 和雄	

B 2

浅井 五六 宇都宮 肇	香取 康夫
後藤 新二 近藤 実	高木 桂
高田 況 水野 晴允	吉信 孝
古山 昌斌 柴田 宣男	

T 1

佐々木正義 高橋 克	三ツ松 平
池田 研一 伊藤 高潤	神谷 立正
田中 良夫 鹿住 誠	向川原慎一
片田 保彦 藤田 東一	

T 2

吉居 清 柴田 道昭	飯田 公男
佐藤 正 森重 雅夫	三ツ口勝久
石井 清 伊東 健光	間瀬 譲
新谷 岳史	

B 1

藤山 祐司 浅野憲一郎	小林 武久
黒田 泰男 細江太喜雄	成田 正人
永井 一美 神田 久嗣	弘瀬 嘉夫
長谷川利孝 伊藤 慎二	

B 2

宮崎 嘉夫 伊藤 三作	外村 俊夫
井ノ口貴敏 富田 敏夫	浅井 良之
稻熊 裕之 篠 松次郎	古田 和則

<メンバーを募集しています>
いっしょに歌いましょう

関男声合唱団

連絡先 関市西本郷町7-6-28、Tel : 0575-22-1638 (河合紀久)
練習場所 関市若草通2-1 わかくさプラザ内 中央公民館 2F音楽室
練習時間 毎週木曜日、19:30~21:30
会 費 月2000円

男声合唱団「昴」

連絡先 Tel & Fax 052-804-2070 (酒井)
練習場所 名古屋市東生涯学習センター
(名古屋市芸術創造センター東隣)
地下鉄東山線「新栄町」下車1番出口を北へ徒歩3分
定期練習 毎月第1・第2・第3月曜日、18:30~20:45
会 費 月1000円

瀬戸男声合唱団

連絡先 瀬戸事務所 Tel & Fax 0561-21-6398 (加藤)
名古屋事務所 Tel & Fax 052-704-0180 (大池)
<http://www.tcp-ip.or.jp/~tasaka-c/setodan.htm>
練習場所 瀬戸市下陣屋町171-3 陣屋スタジオ (宮崎)
練習時間 毎週水曜日19:00~21:00
会 費 月3000円

グランフォニック

連絡先 Tel & Fax 05613-8-0734 (三ツ松)
練習場所 名古屋市音楽プラザ
(金山総合駅より徒歩5分・市民会館北隣)
定期練習 毎週木曜日、19:00~21:15
会 費 月2000円
<http://www.granphonic.com>

四つの男声合唱団による 梅雨の晴れ間のコンサート

新しい世紀～2002年、男声合唱の静かなブームの風を感じて～

プログラム

関男声合唱団

青島広志 編曲「外国唱歌の12ヶ月」より
故郷の廃家 琵琶湖周航の歌 ステンカラージン 他
指揮：近藤紀公 ピアノ：渡辺陽子

男声合唱団「昂」

「アカペラ男声合唱の魅力をもとめて」
見上げてごらん夜の星を 夕やけこやけ かきつばた 他
指揮：山田正明

瀬戸男声合唱団

神谷伸行 構成・編曲「心にしみる日本の歌」
少年時代 秋桜 昂 他
指揮：神谷伸行 ピアノ：吉田雅博

グランフォニック

「花鳥風月」～独り：春の詞華集（あんそあじい）～
指揮：向川原慎一 成田正人 ピアノ：早瀬洋子

合同演奏

堀口大学 作詩 清水脩 作曲 男声合唱組曲「月光とピエロ」
指揮：山田正明

2002年6月23日(日) 2:00p.m.開演 (1:30p.m.開場) 名古屋市芸術創造センター
全席自由：1,500円

主催：男声合唱団「昂」 関男声合唱団 瀬戸男声合唱団 グランフォニック
後援：愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会 中日新聞社

お問い合わせ先 (TEL/FAX) : 酒井 (052) 804-2070
大池 (052) 704-0180